



平成24年6月
第14号

伊佐市 議会だより



4月29日賑わった伊佐ドラゴンボートレース

目次

- 当初予算概要 P 2 ～ P 3
- 委員会報告 P 3 ～ P 5
- 一般質問 P 6 ～ P 14
- あの質問どうなった P 15
- 陳情書・請願書の結果 P 16
- 第1回定例会（3月）の表決結果 P 17
- 総括質疑 P 18
- コラム P 19
- 議会を傍聴して・編集後記 P 20

いい世の中に

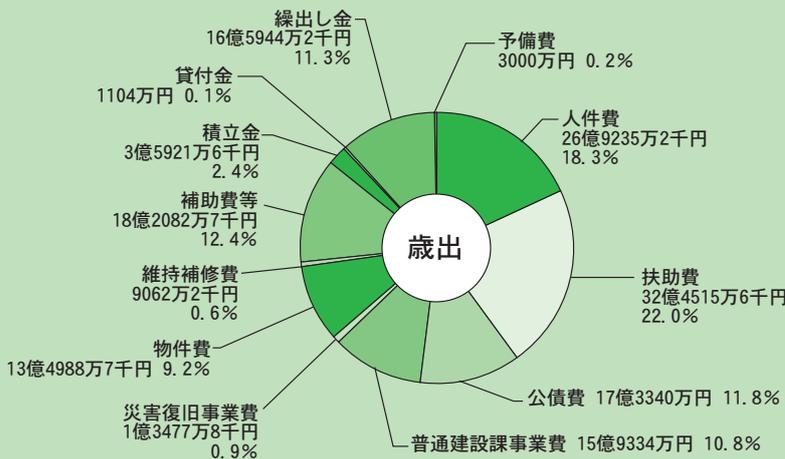
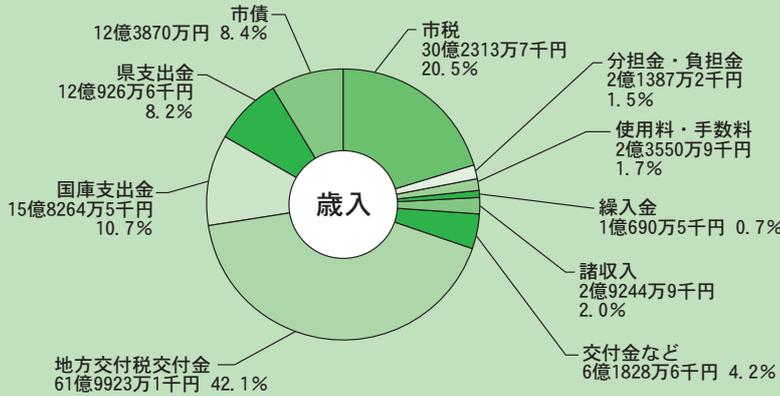
147億2000万円可決

一般会計

「未来志向の創造力」

を精査する！！

3月定例議会は、2月24日から3月23日までの29日の会期で開きました。平成24年度の一般会計予算、平成23年度の最終補正予算の審議、条例制定などの議案を審査しました。議案第23号と28号を継続審査とし、残りの全ての議案を原案通り可決しました。



昨年度（23年度）との予算を比較すると

子育て支援教育に係る予算が約5000万円減少、高齢者の健康・いきがいくろ生活支援、介護の予算が2000万円減少しています。また、市債（市の借金返済）約1億6千万円の減額、職員人件費が約7000万円の減少となっています。

一方、医療・保険、障害者福祉、生活支援などの予算が約4000万円の増額、雇用対策・産業振興、公共事業などの予算が約3億4000万円の増額、環境・地球温暖化対策、防災・災害対策、消費者対策の予算が約1億1千万円の増額となります。

主な予算は

○南三陸町へ職員を派遣。
被災地へ1年間職員2人を派遣し、これを5年間継続する。

○伊佐米のブランドイメージを定着させるため、宣伝費750万円を計上する。ラジオCMや、バスの車体広告を使い、低コストで効果の高い宣伝を行う。

○伊佐市ブランド野菜の新規栽培と面積拡大として、かぼちゃの新規栽培（平成23〜24年）に市が1/3補助。新規に金山ねぎの面積拡大事業を行い10a当り1農家700箱を上限に、多大なネギ出荷調整作業の労力を軽減する。

前年比: 1.4%増

平成 24 年度一般会計予算

○新規就農者の育成支援として、就農希望者の研修期間中の生活の確保をはかるため市単独の支援をする。600万円。
対象者5人(18歳～65歳)
研修期間 最長1年間
5年以上の就農が条件。
給付金月10万円(研修者8万円、受け入れ農家2万円)

○特定優良種雌牛保留導入事業
3位まで20万円、4～7位15万円、8～10位10万円、自家保留20万円、自家保留秀賞10万円

○降灰地域飼料作物確保事業。新燃岳などの降灰による作物の被害対策を図る。平成23年度から県知事特認事業で開始。徳辺・下荒田・宮人・大口東・須原・金波田地区を実施する。3700万円3名以上の畜産農家の連名による共同利用とする、機械施設購入支援。

○自立したコミュニティづくりを目指す。コミュニティ協議会の育成を支援する。
80万円

○木造住宅整備を活性化
市民で木造住宅建築を市内建設業者に依頼し新築した場合、対象経費の10%(30万円を上限とし交付金を支出。増改築の場合は50万円以上の工事対象経費の10%、10万円上限。)

○社会資本整備で雇用を確保。公共土木工事で雇用確保を図る。市道等維持管理事業、地方特定道路整備事業、公営住宅管理事業などを行い、雇用確保を図る。

○すべての高齢者が地域社会で健やかに安心して生活できるように第5期介護保険事業がスタート。

○第5期介護保険計画の概要
本年度から2014年度までの3カ年にわたる第5期介護保険事業計画を策定。法改定による制度改定があり、主なものとして、介護保険料の改定と「介護予防・日常生活支援総合事業」の創設。保険料は基準月額3600円から3960円に改定。「介護予防・日常生活支援総合事業」の創設は、要支援1・2の人に給付されていた「予防給付サービス」、二次予防事業対象者(旧特定高齢者)への「介護予防事業」を「介護予防・日常生活支援総合事業」におきかえるというもの。要支援1・2の人については従来どおり予防給付としてサービスを受けるのかを市が決定する。二次予防事業対象者については従来の介護予防事業に加え、予防給付サービスのうち市が定めるサービスおよび配食・見守りなど生活支援サービスを受けることが可能となる。

○自立したコミュニティづくりを目指す。コミュニティ協議会の育成を支援する。
80万円

当初予算総括表

会 計	平成 24 年度 当初予算額 (A)	平成 23 年度 当初予算 (B)	増減 (A) - (B)	
一 般 会 計	147億2000万円	145億1000万円	2億1000万円	
特別会計	国民健康保険事業	42億9530万円	43億4000万円	△4470万円
	介護保険事業	31億190万円	31億4730万円	△4540万円
	介護サービス事業	1519万円	1352万円	167万円
	後期高齢者医療	4億644万円	4億260万円	384万円
	簡易水道事業	76万円	77万円	△1万円
	農業集落排水事業	1億9333万円	1億9643万円	△310万円
水道事業特別会計	収入	4億8251万円	4億528万円	7723万円
	支出	5億9878万円	5億71万円	9807万円

3月14日より21日まで、総務文教環境福祉、経済建設、それぞれの委員会で審査が行なわれました。

主な質疑の内容

経済建設委員会

林務課

市単独間伐推進事業内容と、森林整備地域活動支援事業

Q 事業の内容は

A 合併当時から補助事業で、森林組合が年間約480ヘクタールを計画し、間伐等を委託した山林所有者に対して、国からの補助金に、市の補助金を加算して事業実施している。森林整備地域活動支援事業は、森林整備計画が認定された森林であり、24年度は森林組合と森林開発公社が、この事業を計画している。



農政課

Q 伊佐でとれる米は、全部伊佐米なのか、それとも区別するのか。

A 伊佐の農家で作った米の全てを、伊佐米という位置づけをする。そのなかで、今後、生産農家の統一した伊佐米の生産基準を示し、更に特別な栽培、環境に優しい米を作る基準を満たせば、伊佐特選米として区分けしていく。

農業委員会

農業者年金積立

Q 国庫補助はないのか。

A 国庫補助というのは政策支援で、35歳までに、一定の条件をクリアすると、掛金2万円の半分の1万円を補助し、35歳を過ぎると6000円の補助がある。しかしこの支援については、受給開始65歳になったとき、後継者がいなければ貰えないということになっている。



地域振興課

伊佐地区産業活性化協議会への補助金55万円

Q 今後の活動方針は。

A 活性化協議会だけは残していき、会員の意識を高め、具体的に事業を企画していく必要があり、市との関わり方など、改善していく。

伊佐市水道事業会計

山野水源地整備費1億円について

Q どのような改修工事か。

A 「山野水源地は現在湧水を利用して配水しているが、その改修工事である。大口地区は布計水源にかたよっており、万が一何かの事故があれば、給水能力が無くなるので、豊富な水のある山野水源地を整備する。24年から27年度にかけて工事を予定している。



環境福祉委員会

健康増進課

予防接種費やワクチン費等の委託料は十分確保

Q 各種がん検診や予防ワクチンの費用は確保できたか？

A 予防接種や各種がん検診・結核検診委託などに8634万円確保できている。ヒブワクチンは800人、小児用肺炎球菌は800人、子宮頸がんは510人を、予算の計上人数としている。



環境政策課

放射線測定器を購入

Q 市民にも貸出できるのか？

A デジタルで四桁のLCD表示で、貸し出しは可能である。

市民課

特定健康診査受診率50.2%

Q 受診率は目標達成出来るのか？

A 平成23年度より受診者数を1000人程度増やさないと65%に達せず、ペナルティが課せられる。自治会ごとの受診率を知らせ啓発している。また、医療機関にも、情報提供或いは個別健診に対し、水俣、人吉の病院も含め協力要請している。

長寿支援課

介護保険料基準月額360円増額

Q 基準月額3960円となっているが、準備基金取り崩しなどで調整したのか？

A 第5期の介護保険料は計算上必要な基準月額が4558円であるが、介護保険基金の取り崩しなどにより、598円の軽減を行い、最終的に基準月額が3960円となった。

高齢者生活支援サービスが充実

Q 介護認定を受けてなくても、突発的に起きた時に使えるのか？

A 比較的元気な独居や、同居人も高齢である高齢者が、事故や病気などの時、ヘルパーにより短期間で臨時的な家事など生活支援を受けられる新たなサービスである。

総務文教委員会

企画調整課

曾木の滝の巨岩に人物彫刻

Q 具体的内容について

A アメリカのサウスダコタ州に大統領の顔を彫った岩があるが、そういったものを曾木の滝の巨岩に活かせないか検討している。日本にないような大きなものを3体、10年くらいかけて彫りたいと思うが、今はその可能性を探っているところである。

文化スポーツ課

県下一周駅伝、女子駅伝は市民協力で

Q 駅伝運営の予算は

A 予算的には380万円くらい必要であり、市助成190万円、主催者の南日本新聞490万円、南日本放送11万9千円で、不足分は市民の方々の募金である。

福祉事務所

地域子育て相談員3人雇用

Q 地域子育てトータルサポート事業の相談員の内容は？

A 相談員は、心理士、社会福祉士、作業療法士や理学療法士などの、専門職種を3人予定している。



今年の県下一周駅伝



会計課 総務課

東北の震災復興支援に職員2人を5年間派遣

具体的な派遣内容は南三陸町に1年交替で、2人ずつ5年間の派遣で、業務内容は、税務、震災復興、生涯学習、観光関係である。なお、公用車2台は、現地引き渡しである。

教育委員会総務課

針持川改修で、針持小プール改築

工事費は工事費9878万円のうち、国庫補助が4237万8千円で、残りは起債となる。工事発注は9月頃を予定している。

議案23 伊佐市防災会議条例等の一部を改正する条例の制定について

議案28 伊佐市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

この2件の議案については、当事者である大口、菱刈各方面団の考え方が大きく異なっており、さらにそれぞれの考え方を聞くということと一致し、継続して審査することとしたしました。

”いさえん”の紹介

一般質問にあがっていた伊佐市の若者の結婚助成策が、ついに形になり動き始めた。

定期的に”婚活”（婚活＝結婚活動）イベントを開催するというところで、事務局が地域振興課に決定。1月に準備委員会を20代の若者を中心に立ち上げ、2月に実行委員会を開催し、「いさ」の「えん」会で生まれる「えん」結びから、「いさえん」というイベント名に決定。

20代～30代までの独身男女がそれぞれ30人、伊佐市内の居酒屋において食べて飲んで出会うと、今全国的に話題を呼んでいる街コンスタイルで出会うの場の提供と、併せて地域活性化をねらう。

広報は、ホームページを中心に、フェイスブック（SNS）を活用しながら行った。

伊佐の特産物を使って会場を盛り上げ、焼酎3メーカー、スカラー社製品も提供していた。多くの人と接してもらうために移動できる仕掛けをし、出会の提供をするともに、伊佐のお店を楽しめる構成にした。

J Aの協力もあり、参加費の一部を被災地への支援米として送る取り組みも。今回の成果として男性63名、女性62名の参加があり、10組のカップルが成立した。また、40人以上が2次会に行くなど、若干の経済効果もみられた。

次回開催を望む声が大きく、参加年齢幅も広げ、第2、3回目の開催を予定している。

協賛：大口酒造、大山酒造、甲斐商店、スカラー、かごしま空港36カントリークラブ、らーめん力、やる気かあちゃんの里、J A北さつま、下小菌タクシー、居酒屋「ひいらぎ」、いざかや「明治」、エステサロンエンジェル

いさえん
～いさより愛をこめて～

伊佐で初の「街コン」やります！
開催日時：5月13（日）18：30～22：00（予定）
開催場所：伊佐市内飲食店
参加資格：20代及び30代の独身男女
同性2人以上でお申込み下さい。
参加費：男性4000円 / 女性3000円

いさより愛をこめて
いさえん

市民生活の 向上をめざし 一般質問 15人



柿木原 栄 一 議員

最古細菌にどう

かわる?

問

海洋研究開発機構は、菱刈鉦山地下に生息する細菌が現存で最古であると発表した。伊佐市はどの程度把握しているのか。

答

南日本新聞で報じられた以上のことは把握していない。

問

伊佐市の官産民の協力で、この細菌の発見が約四十億年前のバクテリアや古細菌の祖先であり初期生命体の解明になることから、関わっていく考えはないか。

答

情報を把握していないが、解明の推移や発表を見守り、その段階で対応したい。

中学武道の安全確保は

問

中学校の保健体育で武道が必修となっ

た。武道の事故・死亡率が突出している。柔道の事故、安全対策は万全か。

答

山野中・大口中が柔道を選択、平成24年度から完全実施される。

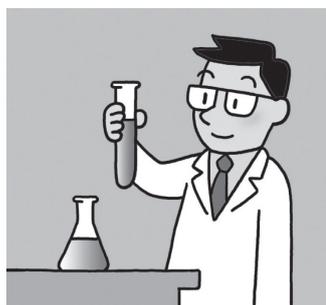
県教育委員会が行う指導者の研修会に参加し、事故防止の啓発指導のしおり等を配布、武道場・備品等は実態を見据え、整備を行っている。

問

柔道で、教員の指導力向上と安全対策は。

答

県教育委員会は4年前から武道の講習指導を行っている。昨年も全県下で行う研修会に参加、今年も受講させたい。伊佐市独自の研修会は状況を見ながら検討する。生徒の実態を把握して安全性を重視し、基本動作・受け身を十分にし、授業を行う。



急げ、観光交流 物産館建設！！

市 来 弘 行 議員



問 伊佐市の「明日」を確かなものにするための政策は、現在なされているもので大丈夫なのだろうか。この点に、大きな疑問を覚え、約2ヶ月ほど、県内外の地域を歩いて見て来た。痛切に感じたのは、伊佐市は遅れている、この

ままでは、他の地域に取り残されてしまうのではという強い危機感をおぼえた。市長は現在の施策で大丈夫であると考えているのか。

答 今年度予算の執行も含めて、現在進めている政策で、十分であると考えている。

問 新幹線効果が少ないと思われる地域の二つの自治体の取り組み姿勢に強い衝撃を受けた。大隈半島の南大隅町とえびの市の取り組みだ。生き残りをかけて必死に取り組む姿勢がそこにあった。

答 国からの補助金等を優先的に投入し、観光交流の物産館を建設し、地域産業の底上げと所得向上、そして担い手の育成を図ろうという強い意思を感じた。伊佐市も決断するときに来ているのではないのか。

答 新しい観光交流の物産館への必要性については、十分認識している。資金面についても、その対応は出来るかと考える。あとは、運営して行く主体をどこにしていくなのか、ということに現在悩んでいる

というのが実情だ。

その他の質問
「農家民宿の拡充・拡大策について」



問 24年度から中学校に武道の必修が義務付けられたが、安全対策、指導者の確保はできているか。

大口、山野中は柔道、大口南、菱刈中は剣道を選択した。各校とも保健体育の教諭が指導者研修を受け、年10〜12時間を指導。外部指導者の活用は考えていない。学校からの要望があれば考えて行きたい。

答 武道具の購入で親の負担、扶助世帯への援助はどうなるのか。

答 柔道については各自負担、希望者は一括購入を予定(3800円程度)。剣道防具は、学校に配備されているものを活用。扶助世帯への援助費は措置されていないが、学用品(就学援助費)で対応してもらいたい。

中学校武道必修の 対策は

諏訪信一 議員



用している。今回、県が学校給食モニタリング事業を実施するので希望している。

その他の質問
○司書職員の配置

給食の安全

問 給食センターでは1日約2500食を園児、児童・生徒たちに配食している。放射線量の検査は行われているのか。また、測定器具は設置され、食の安全は確保されているのか。

答 放射線量の検査は独自には行っていない。測定器具も設置していない。食材は納入先で検査された全て安全なものを使

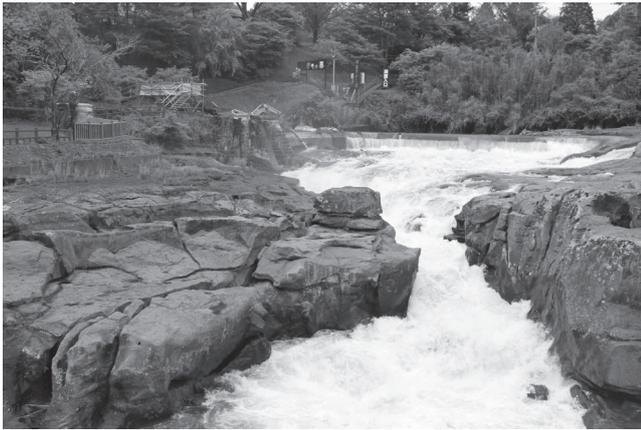


小水力発電の増設を

植松 尚志郎 議員



問 平成25年度に曾木の滝小水力発電所が完成するが、国民は原発に非常に危機感をもっているだけに小水力発電や太陽光利用に期待している。伊佐市は他にも適地があり、今後増やしていくことで増修を兼ねた観光客などを増



曾木の滝

やせると考えるが市長の考えを伺う。

答 曾木の滝の小水力発電は日本工管が行い、先日起工式の神事が終わった。鹿児島県としても池畑副議長を会長として、昨年11月に鹿児島県小水力利用推進協議会が発足している。この小水力発電の優位性を全国にアピールしていくことになる。25年度は鹿児島県にその全国大会を誘致しようと協議会で話し合われており、鹿児島県にも数箇所の候補地が挙がっ

ていると聞いている。私たちが川内川流域で適当な場所がないか、協議会並びに日本工管にも働きかけていこうと考えている。

問 川内川は県下ではとびきり流量も多く、水力発電に適地が多いのでは非、曾木の滝に続き市内に小水力発電の設置努力をして頂きたい。幸い池畑副議長も県の協議会長でもあるので協力して是非、実現できる様に努力されたい。



問 森林経営計画の方向性と本市の取り組みと対応は。

答 始良・伊佐振興局農林水産部林務水産課による経営計画についての説明会を受けた後、林務水産課担当職員と伊佐の駐在員、市と森林組合職員との経営計画の今後の取り組みについて、研修をした。森林計画の概要のチラシを市内全戸に配布し、林業事業体5社と協議を開催する予定である。

問 間伐紙の普及に向けた本市の取り組みについて

答 平成22年度から市25箱、125冊購入している。これからも『木になる紙』を可能な範囲で調達し、間伐紙の利用を促進していきたい。

森林経営計画・

対応は

今吉 光一 議員

犯罪や非行歴のある人の更生支援は

問 本市においても更生支援ができないものか。

答 保護司会と連携して、市内の事業者に犯罪や非行歴のある方を雇用しやすいように協力を求めていく必要がある。総合評価点数方式を導入していくというのは、市独自ではやっていると、難しいところでは、難しいと思っている。

木になる紙

間伐材の需要拡大のため、九州の間伐材を原料に使用した再生紙。古紙を70%、間伐材を30%使用し、原料の間伐材を供給した森林所有者に還元する仕組みとなっており、購入することで間伐を一層の促進を後押しすることができる。



その他の質問
市道植樹帯を市民主導型の委託管理にすることの提案

消防団員の報酬格差は問題！

鶴田公紀 議員



団長、副団長は幹部会で合意を得た。分団長以下団員は段階的調整で平均額の方針で協議したが合意に達しなかった。

問 伊佐市合併協議会の中で、消防団の報酬調整は合併後4年以内に段階的に再編するとある。伊佐市消防団員の報酬は同額であるべきと思うが。

答 両方面団ともに歴史や経緯がある。報酬や制度に差があり調整に難航している。市は平均額を提案してきた。地域審議会の意見等を聞き、市民の目線で検討し結論を出したい。

道路整備は

問 市道八坂・井手原線は市街地住民の避難道路、轟公園、総合体育施設、保育園へ通ずる重要路線で、国道268号の変則四差路に接続している。改善と整備は出来ないか。

答 地権者の用地提供の問題、交差点協議、財源確保、進入車両増が予想されるので周辺自治会の

問 消防団員は地域住民の生命と財産を守り、災害等に出動する。ボランティア精神で行動する団員の報酬額に格差があるのはなぜか。

答 旧市町の報酬額を大口方面団、菱刈方面団として支給してきた。

理解が必要等4つの検討課題がある。

問 国道側の看板設置場所は平成9年に先行取得した市有地である。有効活用で利便性の考えは。

答 線形や勾配上の問題、大型車両等の課題がある。

分団長 等

階級	旧大口 第1～10分団	旧菱刈 第11～17分団	調整額
分団長	80,100	107,000	-
副分団長	63,700	90,600	-
班長	54,400	83,900	-
団員	50,300	77,500	-

団長・副団長

報酬額は年額

階級	旧大口	旧菱刈	調整額
団長	148,500	167,200	157,800
副団長	112,400	131,700	122,100



給食残渣の処理と活用は

久保教仁 議員

問 新しい給食センターが出来て1年になる。旧菱刈町の小中学校の給食残飯が多いと聞く。市内の小中学校における喫食率・残食率はどうか。

答 また、その残飯は一日どのくらいの量で、どう処理しているか。給食センターから出る残飯等の生ゴミを、農業公社に依頼するか生ゴミ処理機の設置により堆肥化し、環境教育や食育の教材として活用は考えないか。

問 学校の給食と生産物の商品化や流通手段を持たない小規模農家を連携させ、その所得向上を目指すべきだと考えるがどうか。

小規模農家への支援は

答 学校給食で差があるが、特に旧菱刈町の小中学校が残食率が多いという状況ではない。11月の調査では、小学校の喫食率97.6%、中学校90.6%。他市町村の同規模の給食センターと比べた場合、残食率は小学校では少なく、中学

校はほぼ同じ程度である。量については、給食を作るときの下処理で出てくる野菜くずなどと残食を含めて1日平均92kgである。これらは、一般廃棄物の事業処分として未来館で処理していただいている。

堆肥化については、センター・公社ともに人的余裕が無く困難。生ゴミ処理機の設置については、経費的な面や他センター等いろいろ調べ研究させていただきたい。

問 今年度ゴボウ・ネギ・カボチャ等の大きな農家を取り込む方針を出している。次の段階としては、ビニールハウス建設の資材・出資等の施策を野菜の種類・量等のデータベースを見ながら考えていきたい。

答 今年度ゴボウ・ネギ・カボチャ等の大きな農家を取り込む方針を出している。次の段階としては、ビニールハウス建設の資材・出資等の施策を野菜の種類・量等のデータベースを見ながら考えていきたい。



十曾旅行村の 施設改善を 岩元克頼 議員



問 十曾青少年旅行村管理棟のトイレは、男女とも汲み取り式で一部破損し、すでに使える状態ではない。また、管理棟の屋根も雨漏りがして、ペンを厚く塗って止めている。早めの改善が必要だ。入村者の中からプールの使

答 平成24年度において、コテージやバン

用を望む声があるがどうするか。

答 築38年経過しており、トイレについては、コテージ内のもので、旅行村内のもので、駐車場のものなどあるので、改善の考え方は無い。また、管理入室はフレンドハウスに移す計画であり、そちらに水洗トイレもある。屋根については補修したい。プールは現在、防火水槽代わりに活用しているが今後も使用することは考えていない。来年度には埋め戻して別途防火水槽を作る。

問 管理棟の屋根は、早く葺き替えた方が良くはないか。塗装も古くなり汚くなっている。フレンドハウスも含めて塗装のやり直しをした方が良くはないか。管理棟内のシャワーも汚く換気扇も小さい。また、管理入室のファックスや放送設備も故障、仮眠室は網戸もクーラーもなく、地デジテレビもない。どうするか。

作る中でシャワー室の改善をする。仮眠室のクーラーも必要なら設置したい。テレビも同様だ。ファックスや放送設備も確認した上で対応したい。



十曾青少年旅行村

問 曾木の滝公園駐車場の新設工事は抜本的な問題解決にならない。樹木の整備等を優先すべきであり、費用がかかりすぎる。ことから必要ないと考える。又、針持小学校のプールの整備については、むしろ市内小・中・高のプールを全廃して一年中使える屋

答 現在のところ経費的な面から考えて無理である。

曾木の滝公園の整備



問 地域のことは地域で決める。また自治体が主体的・能動的に動くことが極めて大切であると考えている。具体的な話として、曾木の滝の展望所と学習館にエレベーターが無いが足の不自由な人はどうするのか。

答 公園の駐車場新設については、県の予算で採択されたので工事を行なう。針持小学校については、プール設置の義務があり、整備していく。



曾木の滝展望台

絆を大切に する 政策を

松元 正 議員

伊佐市まちづくり 要素は？

福本 千枝子 議員



問 農林業や商店街の活性化、人口増に向けた企業誘致や定住促進。交流人口増の為の曾木の滝観光や湯之尾温泉街の活性化をどう考えるか。

答 農業従事者が10年前に比べ2167人と半分以下である。米の販

路拡大分野では昨年の倍の310tを計画。たばこ廃作農家の転作は生産牛や水稲の拡大、ネギ、カボチャ、ゴボウを導入。タケノコ加工場については国や県へ相談するがまずは生産組合を作る事が優先。商店街については空き店舗の助成を行ったが利用が少ない。若い人が立ち上がるべきである。今回出合い事業を計画し、飲食店の協力もひとつのヒントとなる。ビジネスホテル等を建設してもらう事が効果が出ると思う。企業誘致、定住促進については大國フーズと企業立地協定の締結は農業の定着、生産物出荷により定住にもつながる。また、木造住宅への助成制度や中小企業防災対策促進条例を制定し、地元建設業等に常に仕事がある事とした。曾木の滝観光については歴史等の物語を作り、リピーターを増やすことである。湯之尾温泉街の活性化はカヌーやドラゴンレース等で合宿できるような整備を考えている。

高齢者対策について

問 山間部への救急車の対応や現在試行されているデマンド交通の見直しはできないか。

答 電話の聞き取りの正確さを指導する。デマンド交通については使い勝手や障害者を持つ人への配慮を考え検討する。



下流から見た新曾木大橋

中学校再編、 手法に問題

古城 恵人 議員



問

市教育委員会は、中学校再編成統合の重要施策を決定。昨年十月以降各小学校単位で市民・保護者への説明会が行われたが、中学校再編成協議会でまとめられた事項の一方的な報告、説明だったことで反対の請願や陳情が出されている。教育委員長、市長の考えは。

答

再編統合に対して新たな環境にいろいろ不安があることは承知している。中学校再編成協議会からは、意見書も要望書もいただいている。24年度に中学校再編成準備委員会を設置してPTAの代表もいれて様々な不安解消に努めていきたい。

市長

義務教育の再編成統合は市の義務だ。急激に減少する児童・生徒の状況を考慮され、よりよい教育環境を考えて教育委員会が策定された。これから再編成準備委員会では保護者・住民のご意見を反映させ不安を解消できるようにしていきたい。

問

政府与党はTPP参加に前のめりで危機的状況である。TPPが現実となれば、伊佐市の経済は大打撃となる。市長の決意は。

答

TPPは政策論となる。伊佐市の農業・農家はどうか市としても反対の声を届けていく決意である。

農業委員会への諮問は

問

本市の基幹産業である農業の更なる振興の具体策と農業従事者の問題等について農業委員会に諮問する考えはないか。

答

これまで諮問したことはない。これからも農業委員会と農政課とは連携しているのでその必要はない。



ドクターヘリの活用状況は

左近充 議員



問 12月26日より、鹿児島県ドクターヘリが運航しているが、今までの要請回数と、場所、搬送時間、負担金はどのようになっているか。

答 伊佐市での要請回数は2月16日現在5回で、北薩ヘリポート・針



ドクターヘリ

持小・大口東小・大口中・農村公園に着陸している。搬送時間は、鹿児島を出て16分〜26分で来て、病院に着くまで、61分から最大で87分かかる。市の負担金は、1回、3200円となっている。

問 救急搬送は、22年度管外搬送の60.1%が人吉総合病院と水俣市の総合医療センターとなっている。隣接県へのドクターヘリ搬送は出来ないか。

答 熊本県が1月16日宮崎県が4月より運航開始するようになってい

る。その後、3県合同会議が行われる。

市有地の売却について

問 市有地で、住宅建設が出来た所は、何か所くらいあるか。

答 公買地が10カ所と、大口里の中央公民館跡地と菱刈南浦の旧木城体育広場跡地がある。

問 住宅・建設を促進し定住を図るために、すぐに建設する人に安価で販売できないか。

答 民有地とのバランスもあるので、慎重に対処している。公有地財産取得処分等委員会などにかけている。

問 民有地と、慎重に対処している。公有地財産取得処分等委員会などにかけている。

問 民有地と、慎重に対処している。公有地財産取得処分等委員会などにかけている。

問 民有地と、慎重に対処している。公有地財産取得処分等委員会などにかけている。



中学校存続の考えはないか。

畑中香子 議員

問 中学校再編について保護者の理解は得られたのか。専科の先生が不足することよりも子ども数に対する先生の数が減ることの方が子どもや保護者には深刻である。

答 協議会の中で多くの保護者の意見交換がなされ理解を得ている。専科の先生の確保で子どもの可能性を伸ばすための再編である。

問 スクールバスでの長距離通学となり時間のロスが大きい。バスに乗り遅れると他に通学手段がない、部活動ができない子どもが出てくるなど保護者が「ガマンするしかない。仕方がない。」という状況を作り出す行政の責任は。

答 障害を乗り越えて学ぶことも必要である。普通教育を受けさせる

問 協議会の中で多くの保護者の意見交換がなされ理解を得ている。専科の先生の確保で子どもの可能性を伸ばすための再編である。

問 スクールバスでの長距離通学となり時間のロスが大きい。バスに乗り遅れると他に通学手段がない、部活動ができない子どもが出てくるなど保護者が「ガマンするしかない。仕方がない。」という状況を作り出す行政の責任は。

問 協議会の中で多くの保護者の意見交換がなされ理解を得ている。専科の先生の確保で子どもの可能性を伸ばすための再編である。

問 スクールバスでの長距離通学となり時間のロスが大きい。バスに乗り遅れると他に通学手段がない、部活動ができない子どもが出てくるなど保護者が「ガマンするしかない。仕方がない。」という状況を作り出す行政の責任は。

問 子どもの医療費助成は県内でも一番遅れている。子育て日本一を掲げるなら助成拡大を検討せよ。

答 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。

問 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。

問 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。

問 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。

問 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。

問 子ども安心医療で、18歳まで入院費の助成をしている。2月末で24件、137万円の実績があり、大変喜ばれている。発達支援に力を入れており、総合的に一般財源から1億円以上拠出している。県内でも子育て支援のレベルは高い方である。



中学校再編 協議会のあり方

森山善友 議員



問 再編協議会の中で最も重要な立場にある小学校PTA代表はなぜ途中で追加委員であったのか。

答 当初、中学校再編協議会委員の構成に当たり、コミュニティ協議会の代表、PTAの代表を

各中学校区ごとにそれぞれ2名ずつお願いし、協議会を発足したが、途中で委員を増やし、伊佐市の全ての小学校のPTAの代表に入ってもらった方がPTAの声をより反映できるということ、針持小、曾木小、羽月小、羽月西小を含め伊佐市の全小学校のPTAの代表を委員として追加した。当初で見通せなかったことについては反省している。

問 教育委員会が当初出した中学校再編案が協議会において変更となった要因は何か。

答 伊佐市立中学校の再編の実施案としてその基本方針である中学校の再編の必要性は認めてもなかったが、構成の部分で変更となった。その理由として当初は、大口南中を半分にする形で、曾木小学校と針持小学校は菱刈中学校へ、羽月小、羽月西小は大口中学校の方への案であった。それは通学距離の件で出したが、協議会でもPTA分科会、コミュニティ分科会に別れ協議がな

され色々意見は出されたが保護者の間から大口南中を二つに分けるのは現状として難しいとの意見が多く出され最終的に意見集約がなされ大口南中は大口中学校へととなった。



活気ある 街づくりにもむけて

中村周二 議員

問 中央公民館の跡地にビジネスホテルを誘致すれば、飲食店等との組み合わせがよくなり、街を活性化することが出来ると思うが。

答 跡地利用については、無料で貸し付けをするを含め、職員に検討をさせている。ファウンドを組むとか、特別な人が作るのか、いろいろあるが、飲食を伴わなければ、街づくりは出来ないと思うので合わせて考えていく。

いろんな組織を元気に

問 伊佐市の財政も少しずつ厳しくなる。NPO法人で伊佐市の外郭団体を作り、ひとりプロをいれて、いろんな各団体を、より以上強くすることや人材育成はできないか。

答 海士町みたいに、素晴らしい人を入れることは出来るが、伊佐市でNPOをつくり外郭団体というのは、議会との関係、職員の身分等、少し研究をしていく。

問 いろんな団体、NPO法人もあるが、事務所を持つまでには至っていない。佐賀県で「がばいばあちゃん課」をつくって街づくりをやっているのを参考に、伊佐も「NPO課」でも作って、今頑張っている団体等を支援することはできないか。

答 NPOは今からの行政にとってもひとつのポイントになるので、NPO活動のことは支援はできると思う。NPOと行政とのかかわりを勉強しながら協力していく。



追跡!!

あの質問どうなった?!

平成21年9月議会

質問

市内全域を対象とした地域情報無線の設置を急げ!!

答弁

優先する事業は別の事業を考えている。

地域情報無線の設置については、従来の村づくり整備支援事業の中で進めていく。

こうなった

平成23年9月議会で再度設置促進を訴える。

22年度に追加補正を実施
23年度末市内全体に於ける設置件数は、菱刈地区67、大口地区64の計131自治会、世帯数で5849世帯になった。

未設置世帯数は残り約6000世帯。

平成23年6月議会

質問

若者の結婚助政策を急げ

答弁

助政策は今のところ考えていない。

医療・保健・福祉・地域づくりをして安心して子育てができる条件を整備することで少子化に少しでも歯止めがかかると考える。

こうなった

平成24年3月議会
新規に新たな出会い応援サポート事業

独身男女の出会いの場を創設
「出会い重視」「交流重視」それぞれ対象者を限定

5月13日街コン開催を初めに年間数回開催予定

詳細は6ページをご覧ください。

請願と陳情の結果

今回の定例会で審議された皆様からの陳情書・請願書の結果が決まりました。

件名	申請者	負託先	結果
伊佐市立中学校の統廃合に反対する請願書	馬場由美子	総務文教委員会	不採択
伊佐市立中学校再編に関する陳情書	志水範男	総務文教委員会	不採択
調査を求める陳情書平成21年度職員採用（行政Ⅱ）に関する調査を求める陳情書	新屋睦夫	総務分教委員会	不採択

伊佐市中学校再編成に反対する請願書（代表 馬場由美子）
 同じく反対陳情書（代表 志水範男賛同署名者251名）が出されました。

当委員会では、参考人としてそれぞれ招き反対の趣旨を聴取、六回にわたり審査しました。採決方法は起立採決の結果
 請願—賛成3・反対3
 （委員長決定）

陳情—賛成3・反対3
 （委員長決定）
 で不採択となりました。

【賛成の趣旨】
 中学校の再編成統合は、教育行政の重要問題である。計画で大口・菱刈の二校となるのであれば、均衡のとれた規模とすべき。また、市民やとりわけ保護者の合意が得られるような進め方・手法がとられるべきだ。

【反対の趣旨】
 国際化の今日、児童・生徒の将来を考慮しすみやかに再編成統合を進める必要がある。再編成協議会で充分審議されている。平成二十七年四月統合までに三年の時間がある。今後、市民の声を充分聞き進めていけば良い。

4月29日早朝より、ボランティア約100名の方々と一緒に市議会も県立北薩病院敷地内の清掃作業に参加しました。市民の声を尊重し、私達は、北薩病院の必要性と充実を強く訴えています。

北薩病院を守れ！！



清掃作業を終えて



市議会による春の交通安全事故防止キャンペーン



松栄館前の交差点にて



伊佐警察署の方々と

3月10日、春の市の一角で、市議会議員による春の交通安全事故防止キャンペーンを行いました。議員が交通安全のチラシとポケットティッシュを配りながら、市民の皆さんに交通安全と飲酒運転撲滅をよびかけました。

第1回定例会（3月）の表決結果

賛否が分かれた議案のみ（○は賛成、●は反対）

(議案名)		(議員指名)	緒方重則	松元正	久保教仁	前田和文	諏訪信一	畑中香子	今吉光一	井上光一	沖田義一	鶴田公紀	丸田和時	左近充論	柿木原栄一	福本千枝子	市来弘行	森山善友	鶴木誠	中村周二	古城恵人	岩元克頼	植松尚志郎	山下親志	
10号	平成24年度伊佐市一般会計予算		○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長職のため表決には参加しない。
	修正案に賛成														○						○	○	○		
12号	平成24年度伊佐市介護保険事業特別会計予算		○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14号	平成24年度伊佐市後期高齢者医療特別会計予算		○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
29号	伊佐市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について		○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○
33号	伊佐市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について		○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

議案第29号

賛成意見

教育委員会の進め方が、この短い1年で性急すぎた面はいなめない。それで保護者の理解がなかった面も事実だ。今後3年間で様々な意見も反映できると思う。また、中学校再編協議会からも市教委へ意見書と要望書も出されていることから賛成する。

反対意見

学力向上、心身の健康のために学校規模は100人以下が望ましいというのが世界的な通説である。先生一人に対する子供の数を増やすべきではない。登校手段がスクールバスしかなくなる生徒と保護者にとって、通学時間が長い、部活動ができないなどの点から負担が増えることになる。地域が寂れ過疎化に拍車がかかる。学校があることは公共事業よりも経済波及効果が高いという研究成果がでていいる。
今議会に反対の陳情と請願が出ており、住民の理解を得られていない。

議案第10号

修正意見

国外市場へのシェアの確保に向けた取り組みとして輸出促進を強化する計画だということだが、将来の展望が見えない補助事業ではないかと考える。
もう少し、輸出促進に対する考え方、推進の方法も含めて検討を重ね、堅固で長続きのする計画にまとめ上げてから実行してはどうだろう。それまでの間、こういう形での輸出を再検討するため、150万円の補助金を減額するために修正案を提案する。

修正案反対意見

農業事情の厳しい中、何らかの活動をしない限り発展性はないと思う。
輸出補助金については輸送コストや宣伝費・活動費として当面必要と思うタイ米とジャポニカ米とは利用価値が違う。タイ米との競争とは思わない。ヒノヒカリの評価を上げることによる販売促進事業と思う。
以上のことから議案第10号修正案に反対である。

総括質疑（付託議案）

順位	発言者	質疑事項
1	緒方 重則議員	伊佐市中小企業防災対策促進条例の制定について
		平成24年度伊佐市一般会計予算
2	森山 善友議員	平成24年度伊佐市一般会計予算
3	松元 正 議員	平成24年度施政方針について
4	鶴田 公紀議員	平成24年度伊佐市一般会計予算について
5	畑中 香子議員	伊佐市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
6	今吉 光一議員	伊佐市木造住宅整備促進支援基金条例の制定について
		平成24年度伊佐市一般会計予算
		木造住宅整備促進事業について
7	古城 恵人議員	平成24年度伊佐市一般会計予算
		伊佐市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
8	前田 和文議員	伊佐市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
9	岩元 克頼議員	平成24年度伊佐市一般会計補正予算
		伊佐市木造住宅整備促進支援基金条例の制定について

総括質疑（即決議案）

順位	発言者	質疑事項
1	岩元 克頼議員	平成23年度伊佐市一般会計補正予算（第5号）
2	鶴田 公紀議員	平成23年度伊佐市一般会計補正予算（第5号）
3	森山 善友議員	平成23年度伊佐市一般会計補正予算（第5号）

表紙によせて



去る4月29日、初夏の川内川を舞台に、今年も熱い戦いが繰り広げられた。

昨年まで『ひしかりドラゴンカップ』と称していた大会名を、今年から『いさドラゴンカップ』に改称。市内外から68チーム、816名が出場、約1200名の来場者とともに大会を盛り上げた。

このドラゴンレースが始まったきっかけは、平成2年にさかのぼる。当時、旧菱刈町において『ひしかりがらつば王国』が川を活かしたイベントが何かできないものかと企画、ドラゴンボートを導入したことがその第一歩となった。以来、22年の歳月を重ねたことになる。そのため、2世代・3世代に渡る参加者も出てきており、今では地域の行事として定着してきている。

その波及効果として、このイベント開催が地域の活性化・青少年の育成に大きな役割を果たしてきた事実もしっかりと認識しておきたい。

（市来）

ひとくち

コラム

伊佐で働くエキスパート

「伊佐人氣質」に惚れた

ジャパンファーム養豚事業本部長 中屋 修

伊佐盆地は、早苗青さが漂う初夏と黄金の稲穂が映える秋の風情は「故郷」と言う表現がぴったりで、日本古来の原風景を今様変えながら伝え残している豊かな地域と感じています。その上に、川内川と曾木の滝に代表される清流の恵みと、囲まれる峰々の常緑樹の多い森林は、他の地域には見られない特典と誇れる財産だと思います。

伊佐市合併前の大口市に転居したのは、宮人に養豚事業所を開設させて戴いているジャパンファームに勤務しており、それ故に「異動辞令」携えて二〇〇三年十月初めのことになりました。それまでは、大隅半島の宮崎県境にある志布志市に住んでおりましたが、もう既に十年が経とうとしています。

「人の域に近くなったと思います。(但し、傍目で見ると皆様の樽規格は比較にならないほど大きいのは確かです)」さて、伊佐の地住み、年数を重ねるごとに離れ難くなっており、その理由は、冒頭に書いたとおり自然に囲まれた「快適な生活環境」と、それにも増して魅力的なのはそこに住む人々の「伊佐人氣質」です。

では、「伊佐人氣質」とは『薩摩隼人の志を内に秘めている』この一言に尽きると思いますが、薩摩の時代から底辺に流れる郷中教育(新納忠元の作成した「二才咄格式定目」)があり、その中でも僕が同感するのは

- 一、咄外の者との不必要な付き合いは控えよ
- 二、仲間との連帯を重んじよ
- 三、軽薄な言動を慎め
- 四、決して嘘を言わない
- 五、負けるな
- 六、質実剛健たれ

この六項目です。時代が求める背景もありこの教えを全う出来ぬところはありますが、人としての根底に標すべき

き教訓とします。何故にこのような思いを強くしたのかには、私の職場で起きた不測の事態がきっかけです。

私の職場を簡単に紹介しますと、ご存知の方々も多いと思いますが、常時十万頭を超える豚(日本一の規模)を飼育し、年間十九万頭を出荷する畜産を生業としています。そこには、二百棟以上の建物と、二百五十名(平均通勤距離が約八km)が働いています。特徴的なのは、構成人員の九五%が伊佐生まれで、その殆どが男性という「男社会」の極地と言えます。

その職場で、数年前の早朝に火災が発生したのです。この時の対応が正に「伊佐人氣質」を表しています。初めに、火災は大きく延焼も懸念されましたが、これを難なく現場に駆けつけた数人で最小規模に治めた事。次には、検証を終えた事後処理が、機器の手配から残骸処理の速さ、始末のクオリティが高かった事。三番目には、指揮官が対外的な対応に追われ右往左往する中で、各人が指示を待つのではなく、自分の役割を認識し、自ら判断・率先して動いた事。四番目には、現場は過酷な状況を目前にしながらも、声

を張り上げていても無く、アイコンタクトだけで、粛々と進めて行く事。最後には、復旧に向けての算段を積極的に進行させ、半年後には最先端の設備を整えた建物で再スタートできた事。

このような突発的な事態に対して、一連の対応を傍らから観るに付け、働く仲間の意識の高さ、責任感の強さには、万全の信頼を置ける仲間であると僕の心に刻み込みました。これこそ、何にも替えがたい財産と気付かされた瞬間です。



日本一の「焼酎粕」給餌システム建物群



農場内の畜舎展望

この伊佐に生まれ育まれ、無意識の内に身につくのが伝統や文化だとすれば、伝えられる「伊佐人氣質」は大事にしなければならぬと考えます。この前後にも、事業破綻に

繋がるといふリスク(口蹄疫・感染性疾病)が度々発生しておりますが、伊佐を挙げての支援体制や仲間の献身的な努力、地理的な好条件得て、幸いにも乗り越えられた事には感謝の限りです。

大事なことは、「そのとき、どう動く」だと思います。如何なる難局を迎えたとしても、信頼できる仲間の存在は、大きな強みになります。今後については、過去より取組んできました大口酒造との提携である「焼酎粕」を豚に給与するシステムの成功を糧に、伊佐の地から「養豚事業日本一なる」という野望を懐いて、「伊佐人氣質」を秘めた仲間と共に目指して行きたいと思えます。

議会を 傍聴して



松本 恵子

友達に誘われて初めて議会傍聴へ足を運んだのが十年前でした。

各場（ふれあいセンター・大口庁舎・菱刈庁舎・インターネット）でのテレビ傍聴されている方もいらっしゃると思いますが、残念なことに議場での傍聴は今も十年前も変わらず少ない事です。

議員の方々も一生懸命、この伊佐を活性化させ住みよい町づくりに日々勉強され、市民との太いパイプ役になって活動されておられます。

私達市民も、もう少し市政への関心をもたなければいけないと思います。

選挙の時だけの一票では無く、自分の一票を投じた議員さんの活動を自分の目で見、自分の耳で聞くのも私達の責任ではないでしょうか。

伊佐の地への想いは誰しも一緒のはずです。今後の伊佐の発展と市民が安心して暮らせる町づくりに議員の皆様のご活躍とより一層充実した議会をお願いいたします。

6月定例会のお知らせ

- 6月1日(金) 本会議(招集日)
議案上程、提案理由説明
- 6月8日(金) 本会議(2日目)
総括質疑、即決議案処理
委員会付託、陳情上程
- 6月11日(月) 環境福祉委員会
- 6月12日(火) 総務文教委員会
- 6月13日(水) 経済建設委員会
- 6月15日(金) 本会議(3日目)
一般質問
- 6月18日(月) 本会議(4日目)
一般質問
- 6月19日(火) 本会議(5日目)
一般質問
- 6月22日(金) 本会議(最終日)

議会ライブ中継を、大口庁舎、菱刈庁舎、ふれあいセンター、まごし館でもご覧になれます。

合志市との意見交換会

2月8日、熊本県合志市市議会の議会広報等特別委員会の方々が伊佐市議会を訪問。議会だよりの編集について、意見交換を行いました。



編集・発行責任者

議長

山下親志

議会広報等特別委員会

委員長

古城恵人

副委員長

畑中香子

委員

鶴木 誠

市来弘行

丸田和時

緒方重則



編集後記

初夏の陽ざしの中一斉に田植えの準備が始まり、いよいよ伊佐の地も農繁期の季節となりました。早いもので伊佐市誕生から4年目に入り、11月には市議会議員選挙・市長選挙を迎えます。

4月は、テープから原稿を起す業者の入れ・契約更新のため発行が遅れますことをお詫びいたします。

国内外に目を転しても大変困難な課題ばかり。本市22名の同僚議員は、市民生活に密着した課題に果敢に取り組みました。

一般質問者の数だけを取り上げますと、九州全体でトップとは言いつてもその提案事項が、市民の目に見える形で実現したかどうか、評価は皆さんにお任せするしかありません。

さて、2月には合志市から議会広報等特別委員会一行が伊佐市の議会だより編集を研修されました。その中で、私たちもいろいろな学びがありました。1つには、重要な審議案件については表決結果を一覧表にされていること。

2つには、議会のうごきをタイムリーに掲載されていること。

伊佐市の編集内容では、「議会を傍聴して」、「あの質問どうなった」のコラムに関心を持たれていましたが、既に新議会だよりで活かされています。

また、広報づくりの経験者はじめ市民各位の皆さま方からもご意見をいただきました。早速、編集会議でそのことを活かして工夫編集に取り組みました。

私どもが担当する議会だより編集も後2回となりました。皆さまが手にとり読む気になっていただける紙面づくりにラストスパートをかけて邁進したいと思っております。

(古城恵人)